

とっとと通信

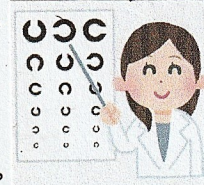
2025年5月24日発行

266号

「とっとと通信」は
略してとっつう。
いつも読んでくださ
りありがとうございます。

こんにちは！平川です。夏の気配を感じてる陽気に、半そでを着ることが多くなりました。いかがお過ごしでしょうか。さて先日、ゴールデンウィーク明けに、左眼の手術をしました。黄斑前膜（おうはんぜんまく）という病気です。では今月もはりきっていきましょう！

眼底の網膜の表面に薄い膜が張り付いてしまう病気です。私の場合症状は、微妙に直線がゆがんだり、また左眼だけで見ると、右眼よりも20%ほど大きく見えたりするのです。それに気づいたのは2年前、メガネを新調したときです。度数は合っているのですが、どうもしっくりこないのです。ハッキリと見え



ているのですが、違和感があります。レンズを変えても同じでした。これはレンズのせいじゃないな。そう思い眼科へ行ったところ、黄斑前膜と診断されました。しかし急激に進行する病気ではないので、その時はとりあえず経過観察で様子を見ることにしたのです。そして今年の3月、健康診

断を受診した際に左眼の視力が少し落ちていたのです。眼科で再検査をする、仮に手術をするにしても（ここでは出来ない）、紹介状を書きましよう。と福岡市の専門病院を紹介してもらいました。手術方法を事前にネットで調べると、硝子体手術という、眼の白目に小さな穴を3つあけます。その穴へ眼内を照らす照明器具、小さなピンセットを入れ、眼球の底に張り付いた薄い膜をはがすのです。いくら全身麻酔とはいえ、考えただけでも恐ろしいでしょ。私は手術への不安もありましたし、また普段の生活には支障もなかったのですが、病院を紹介されても、手術をするつもりは1ミリもなく、セカンドオピニオンとして詔だけ聞くつもりでした。ところが



病院だなあと感じていました。もちろん担当の先生も知識と経験がある方で、リスクもきちんと話してくれました。私は直感で「この病院だったら間違いない」と思い、その場で手術日を決めたのです。また硝子体手術は白内障が進行しやすいので、同時に白内障手術もすることにしました。そしてその日の夜、手術を決めた経緯を妻に話しながら「会社も同じで初めての取引の時、お客様は会社を判断するのに、社長はもちろん、社員さんや会社の雰囲気も見られているんだ」と思いました。そして手術当日の朝、妻と一緒に病院へ。すべてを先生に任せると決めたからでしょうか、まったく緊張していません。むしろとっとと通信のネタを探さなきゃと思っている自分に笑えてきました。手術室はテレビでよく見るセットと同じです。意外だったのがBGMに「嵐」が流れていたことです。きっと先生が好きなんだろうね。そして手術台に横になると、「点滴から麻酔を入れますね」と。すると頭もとで、看護師さんが数を数え始めました。1、2、3……。あ、これもドラマと

一緒に数えるんだ。よし、どこまで寝ずに我慢できるか耐えてみよう。7で落ちました。ふふ、手術は40分くらいでした。目覚めた時は病室のベッドで看護師さんと妻がいました。私は記憶にないのですが、看護師さんに向かて「えー、もう終わったの？えー」って言ったくらいです。これは何となく分かるんです。何かネタを探そうと思っていたのに、気づいたら終わっていたので、そう言ったんだと思います。そして看護師さんがいなくなったり、今度は妻に「お腹すいたー、お腹すいたー」と言ったようです。これも前日の2時から絶食でしたので、さう言ったのでしょう。そしてオナラをブブブと運送したらいいです。これは分かりません。愛2日間入院しました。痛みはありません。現在、視力は手術前より見えませんが、ゆっくり回復するようです。また退院後、1週間は、自己洗髪が禁止でしたので、妻に洗ってもらいました。感謝



発行／有限会社アサム 平川雅樹
〒819-1127 福岡県糸島市有田中央 2-14-36
☎: 092-321-4001 ✉: hirakawa@asam.jp

・伊都倫理法人会ブログ : <https://itorinri.com/>

ご感想や楽しいメッセージをお待ちしています。大変打ちれ弱いので、批判はご遠慮下さいませ(笑)